イベントレポート 『2012 K耐久東海シリーズ 第2戦』

開催日 2012 年 5 月 20 日（日）
13:00 決勝スタート 16:00 チェッカー
天候 曇り
最高気温 22.2℃（13 時）
場所 スパ西浦モーターパーク
参加台数 35 台

2012 年K耐久東海シリーズの第 2 戦が、5 月 20 日に愛知県蒲郡市のスパ西浦モーターパークで開催された。
天候は曇りで日差しは無かったものの、5 月の過ごしやすい気温も相まって絶好のレース日和となった。
今回も開幕戦に続きイベントサポートガールが登場。最前列グリッドは 2 ショット撮影してもらえるとあり、予選はいつもにも増して熱気を帯びた。

■ KNNクラス（軽NAのノーマルクラス）

昨シーズンより設けられたこのクラス。LSDの装着が禁止されるなど改造範囲がかなり絞られ、ローコストでマシンを製作出来るのが魅力である。
開幕戦では昨年度のシリーズチャンピオン#100「HACもらいものビート」が優勝。
続く2位から4位までは、アルト、ミニカといった新規格軽自動車勢3台が続いたが、第2戦ではこの3台が揃って欠場。
代わりに新規参戦して来た#57「レイズKCプロジェクトアルトV」が今回唯一の新規格車となり、ビートvsアルトバンvsトゥデイといった、異なる車種3台による戦いとなった。

■予選

予選 1 番手のタイムを出したのは#16「ガレージイシヤマトゥデイ」。開幕戦でも予選ではクラス 1 番手のタイムを出していたが、決勝は 5 位と奮わず。しかし今回の予選タイム 1’09.305 はKNNクラスの過去ベストタイムであり、決勝の走りにも期待がかかる。
2 番手には開幕戦優勝の#100「HACもらいものビート」が続き、1’13.220 のタイムをマークする。
3 位の#57「レイズKCプロジェクトアルトV」はコース完熟に時間を掛けながらも 1’14.823 を記録する。

■序盤

スタートから 1 時間、予選 1 位からスタートの#16「ガレージイシヤマトゥデイ」は順調に周回を重ね、47LAP で 1 位をキープする。
続く 2 位は#100「HACもらいものビート」で周回数は 45LAP。
3 位の#57「レイズKCプロジェクトアルトV」はドライバーが 6 名体制のため序盤からピット回数が多く、周回数は 33LAP に留まる。

■終盤

2 時間が経過した時点でも、#16「ガレージイシヤマトゥデイ」がなおも 1 位の座をキープし 82LAP を周回する。
2 位の#100「HACもらいものビート」はトップから 4 周差の 78LAP で追い掛ける。
3 位を走行していた#57「レイズKCプロジェクトアルトV」は 1 時間半の時点でコースアウトを喫する。その後レースに復帰するものの大きくロスしてしまい、2 時間時点での周回数は 61LAP となる。

■最終結果

予選 1 番手からスタートした#16「ガレージイシヤマトゥデイ」が、終始 1 位の座を守り続け、トップでチェッカーを受けると共に、KNNクラス初勝利を飾った。117LAP を走行し、総合でも 18 位という好成績であった。
#100「HACもらいものビート」は 113LAP の 2 位でチェッカー。良い走りを見せたが今回は#16 に及ばなかった。
3 位には初参加の#57「レイズKCプロジェクトアルトV」が 94LAP でゴール。ドライバー6 名体制に加え、コースアウトなどのアクシデントにも見舞われたが、11 秒台のベストラップをマークして今後に大きな期待を持たせた。
第 3 戦では何台かのアルトバンが再びエントリーしてくるとの情報が入ってきているので、新規格車勢の巻き返しを期待したい。

■ KNCクラス（軽NAのクローズドクラス）

今回はトゥデイが 4 台とエッセが 1 台で、合計 5 台のエントリーとなったこのクラス。開幕戦では、エッセが予選 1 位となる快走を見せたが、レース序盤にマシントラブルでリタイヤとなってしまった。第 2 戦でもエッセがトップ争いに加わるのか。

■予選

予選 1 位となったのは#25「アカミミネコマル2トゥデイ」で、タイムは 1'08.798 をマークする。
2 位には、初参加の学生チームである#26「金沢大学DXL BSトゥデイ」が、1 位から遅れることわずか 0.4 秒の好タイムで入ってくる。
3 位から 5 位までは 11 秒台での争いとなる。3 位には#81「パイオニア・ワコーズ・エッセ」が 1'11.368 で、4 位には#911「CRAZYZYトゥデイ 1 号」が 1' 11.585 で、5 位には#60「サーキットのじじいトゥデイ」が 1' 11.749 で続く。

■序盤

レース序盤、ポールスタートの#25「アカミミネコマル2トゥデイ」が快調なペースで周回を続ける。1 時間経過時点で 47LAP を走行し、1 位の座をキープする。
2 位には予選 4 位から浮上してきた#911「CRAZYZYトゥデイ 1 号」が、トップと同一周回の 47LAP に並んでくる。
3 番手の#60「サーキットのじじいトゥデイ」と 4 番手の#81「パイオニア・ワコーズ・エッセ」は、共に 44LAP の同一周回。
予選 2 番手スタートの#26「金沢大学DXL BSトゥデイ」は、義務ピットイン時間不足のペナルティなどもあり、42LAP の 5 位までポジションを落とす。

■終盤

2 時間経過時点では、#911「CRAZYZYトゥデイ 1 号」が 1 位に浮上してくる。周回数は 82LAP をマークする。
2 位と 3 位は 80LAP の同一周回での争いとなる。2 位の#25「アカミミネコマル2トゥデイ」を 3 位の#60「サーキットのじじいトゥデイ」が、僅か 9 秒差で追い掛ける。
4 位の#81「パイオニア・ワコーズ・エッセ」は 78LAP であるが、1 分短いピットハンディーを活かしてどこまで挽回できるか。
#26「金沢大学DXL BSトゥデイ」は 76LAP の 5 位に付けるが、表彰台はやや厳しいか。

■最終結果

KNCクラス、トップでチェッカーを受けたのは、117 周を走りきった#911「CRAZYZYトゥデイ 1 号」であった。予選こそ 4 位であったが、中盤から見事な追い上げで、今シーズン初参加で初優勝をものにした。
2 位でフィニッシュしたのは#25「アカミミネコマル2トゥデイ」。116LAP を走行したが、優勝まで僅かに及ばず 2 戦連続での準優勝となった。
3 位には#60「サーキットのじじいトゥデイ」が 115LAP で続いた。開幕戦に続く 2 連勝とはならなかった。

4 位には#81「パイオニア・ワコーズ・エッセ」が入った。周回数は114LAP で、表彰台まで僅かに届かなかった。
#26「金沢大学DXL　BSトゥデイ」はラスト30分でマシンを損傷して走行を停止。90LAP でチェッカーを受けずにレースを終えたが、レギュレーションにより完走扱いとなり、シリーズポイントは獲得した。
シリーズはまだ2戦を終えたばかりだが、上位の順位は大きく変わっている。裏を返せばどのチームにも上位のチャンスがあると言えそうである。

■ KNOクラス（軽NAのオープンクラス）

開幕戦では 6 台がエントリーしていたこのクラス。今回は一気に台数が増え、13 台の激戦区となる。
また今回は 2 台のビートと 1 台のミラがエントリーしてきた点も注目のポイント。並み居るトゥデイ勢にどこまで食い下がることができるのか。

■予選

予選 1 番手のタイムをマークしたのは#23「チームミニトゥデイー」。1'05.437 は総合でも 2 位となる好タイムで、最前列グリッドを獲得する。
2 番手は同じく 5 秒台をマークした#99「チームオーシャンズトゥデイ」が続く。タイムは 1' 05.917 を記録する。
3 位にはビート勢の一角#910「CRAZYZYレーシングビート」が 1'06.404 の好タイムで入り、周囲を驚かせる。
4 位から 6 位はトゥデイ勢が独占。4 位の#82「iTECHワコーズトゥデイ」は 1'07.303、5 位の#880「タカタCCMCトゥデイ」は 1'07.456、6 位の#296「小山輪業KR—Oトゥデイ」は 1' 08.507 をマーク。
新規格のミラで参戦の#410「ワタナベサービスDFみらりん子」は、初走行ながら 1'08.790 の 7 位に付け、実績あるトゥデイ勢のすぐ後ろからのスタートとなる。

■序盤

スタートから 1 時間。予選 6 位からスタートの#296「小山輪業KR—Oトゥデイ」が大きく順位を上げ、1 位にまでポジションアップしてくる。51LAP を走行し、この時点で総合でも 1 番手に躍り出る。
2 位から 4 位までは 49LAP の同一周回。予選 1 位からスタートした#23「チームミニトゥデイー」が 2 位、予選 2 位だった#99「チームオーシャンズトゥデイ」が 3 位に付ける。4 位の#3「マケラーレンMBS・Uトゥデイ」は予選最下位から驚異的なジャンプアップを果たす。
以下、5 位には 48LAP の#82「iTECHワコーズトゥデイ」、6 位には 46LAP の#38「デモリッションエグゼトゥデイ」と続き、気が付くとトゥデイ勢が上位を占めることに。

■終盤

2 時間が経過してもなお、上位は大混戦状態。1 位の#296「小山輪業KR—Oトゥデイ」と 2 位の#23「チームミニトゥデイー」は共に 86LAP の同一周回。
また 3 位の#99「チームオーシャンズトゥデイ」と 4 位の#82「iTECHワコーズトゥデイ」は共に 85LAP を走行。
5 位の#3「マケラーレンMBS・Uトゥデイ」も 84LAP で、表彰台争いの行方は最後まで全くわからない。
6 位には#910「CRAZYZYレーシングビート」が 82LAP で再浮上し、入賞圏内をキープするが、7 位には 1 周差で#38「デモリッションエグゼトゥデイ」が追い掛けて来ており、入賞圏争いはラスト 1 時間での勝負となる。

■最終結果

激戦のKNOクラスを制したのは、序盤からトップの座を守り続けた#296「小山輪業KR—Oトゥデイ」であった。124LAP を周回し、総合でも 2 番手となる素晴らしい記録で、開幕 2 連勝を飾った。
2 位には#23「チームミニトゥデイー」が 123LAP で続いた。終始トップを視野に入れながらの走行であったが、惜しくも優勝には手が届かなかった。
3 位は 2 位と同一の 123 周を走りきった#99「チームオーシャンズトゥデイ」が入り、嬉しい表彰台をGETした。
4 位の#82「iTECHワコーズトゥデイ」は表彰台にはあと半周届かず 122LAP でのフィニッシュとなった。
5 位の#3「マケラーレンMBS・Uトゥデイ」も 4 位と同周回の 122LAP。開幕戦の 6 位から一つ順位を上げて来たので、次回は一気に表彰台と行きたいところか。
#910「CRAZYZYレーシングビート」は 119 周の 6 位でチェッカー。ビートで入賞を果たしたことは、トゥデイ以外の車種でエントリーするチームにとって希望を持てる結果となった。
シリーズポイントの上では開幕 2 連勝を飾った#296「小山輪業KR—Oトゥデイ」が早くも頭一つリード。第 3 戦では#296 の連勝を止めるチームが現れて来るのであろうか。

■KTCクラス（軽ターボのクローズドクラス）

開幕戦では 9 台のエントリーで賑わったKTCクラス。今回も開幕戦と同じ顔ぶれの 9 台がエントリーとなり、手の内を知り尽くした者同士での争いとなった。
昨シーズンは毎戦優勝チームが入れ替わる混戦ぶりであったが、今年も昨年同様の展開となるのだろうか。

■予選

予選 1 位になったのは#330「DXLミヤマカプチーノ」でタイムは 1’07.240 をマーク。今シーズンから新規参加したこのカプチーノは、MC後のK6Aエンジン搭載車両である。
2 位には 1’07.959 で#95「DXLマックイーンカプチーノ」が入り、上位をカプチーノが独占する。
3 位の#46「カーエナジーアルトワークス」は 1’08.364、4 位の#392「Zammersヴィヴィオ」は 1’08.707、5 位の#112「白須賀会カプチーノ」は 1’09.788 と、昨シーズンの上位チームが連続して入ってくる。
以下 6 位に#93「マリンダイビングアルト」、7 位に#21「ZESTルブロスセルボ」と続く。

■序盤

スタートから約 45 分、予選 5 番手からスタートした#112「白須賀会カプチーノ」がコースアウト。レース復帰までに約 1 時間を要し、戦線離脱してしまう。
1 時間が経過した時点では、48LAP を走行した#46「カーエナジーアルトワークス」が 1 位に立つ。これを 16 秒遅れの同一周回で、#95「DXLマックイーンカプチーノ」が追う展開。
3 位と 4 位は 47LAP の同一周回。3 位には#93「マリンダイビングアルト」予選 6 位から浮上してくる一方、4 位の#330「DXLミヤマカプチーノ」は予選 1 位から順位を落とす。
5 位と 6 位は 46LAP での争い。5 位に#21「ZESTルブロスセルボ」、6 位には#392「Zammersヴィヴィオ」が続き、複数のチームに表彰台の可能性が残る。

■終盤

2 時間が経過すると、トップの 2 台が入れ替わる。#95「DXLマックイーンカプチーノ」が 84LAP で 1 位に立ち、#46「カーエナジーアルトワークス」は 1LAP 差の 2 位となる。
3 位と 4 位も 1 時間の時点とは逆の順位となる。3 位に#330「DXLミヤマカプチーノ」、4 位に#93「マリンダイビングアルト」というオーダーになり、共に 82LAP での争いとなる。
5 位の#21「ZESTルブロスセルボ」は 81LAP で順位をキープ。
80LAP の 6 位には、新規格車両の#925「赤兎925コペン」が入賞圏争いに名乗りを上げて来る。

■最終結果

終盤、トップを走行していた#95「DXLマックイーンカプチーノ」であったが、終了 30 分前に行なった義務ピットインで痛恨の時間不足となり、1 分のペナルティストップを受けることになる。
このペナルティによって、ラスト 30 分で#46「カーエナジーアルトワークス」がトップに浮上し、そのままチェッカーを受けて優勝となった。周回数は 120LAP であった。
#95「DXLマックイーンカプチーノ」はトップに 1 周届かず 2 位に終わった。
3 位には 117 周を走りきった#330「DXLミヤマカプチーノ」が入り、嬉しい初表彰台となった。
4 位から 6 位までは 116 周の同一周回での混戦。この争いを制したのはラストで順位を上げてきた#21「ZESTルブロスセルボ」であった。
#93「マリンダイビングアルト」は 4 位に 15 秒届かず 5 位でのフィニッシュとなった。
6 位には新規格軽の#925「赤兎925コペン」が入り、新規格軽自動車勢に希望を与える入賞圏内を確保した。
シリーズポイント争いでは#46「カーエナジーアルトワークス」が一歩リードした感があるが、他の複数のチームが逆転を狙える位置に付けている。
昨年同様、毎回勝者が変わる展開となれば、最終戦までポイント争いがもつれることは必至であろう。

■KTOクラス（軽ターボのオープンクラス）

開幕戦では 6 台のエントリーがあったKTOクラス。今回はその中の 1 台が欠席となったが、代わりに他の 1 台がエントリーし、開幕戦と同じ 6 台での戦いとなった。

■予選

予選 1 番手のタイムをマークしたのは#210「ZESTルブロス DXL アルト」。1’04.957 は総合でもトップとなるタイムで、ポールポジションからのスタートなる。

2 位には前回優勝を飾った#666「ヴィスコンティIMWあると」が 1’05.465 で続き、好調ぶりを印象付ける。

3 位の#777「ナルミファクトリーアルト1号車」は 1’05.928。開幕戦ではペナルティにより最終順位を落としたが、トップを争う速さを持っていることは証明済み。

4 位には一昨年のKTOクラスチャンピオン#8「DXLグローバルカプチーノ」が 1’06.289 で続く。

以下、5 位に#32「爆走あばれ馬DXLミニカ」、6 位に#1「ワイオー・サン・ハチ・ワークス」というオーダー。

■序盤

スタートから 1 時間。トップに立ったのは 2 位からスタートの#666「ヴィスコンティIMWあると」で 50LAP を周回。前回優勝の実力を発揮する。

2 位には同一ラップで#8「DXLグローバルカプチーノ」が続く。

3 位の#777「ナルミファクトリーアルト1号車」と、4 位の#210「ZEST ルブロス DXL アルト」は共にトップから 1 周ダウンの 49LAP。

続く 5 位の#32「爆走あばれ馬DXLミニカ」と 6 位の#1「ワイオー・サン・ハチ・ワークス」も 48LAP に付けており、全チームが表彰台の可能性を持って中盤に突入する。

■終盤

順調にトップ争いを続けていた#666「ヴィスコンティIMWあると」であったが、2 時間を目前にマシントラブルが発生し、無念のリタイヤとなってしまう。

2 時間経過時点でトップに浮上してきたのは#210「ZESTルブロス DXL アルト」。87LAP を走行し、総合でも一番手の位置に付ける。

2 位の#8「DXLグローバルカプチーノ」は持ち前の堅実な走りで 85LAP を周回。これを今シーズン初参加の#1「ワイオー・サン・ハチ・ワークス」が 83LAP で追いかける。

4 位の#32「爆走あばれ馬DXLミニカ」と 5 位の#777「ナルミファクトリーアルト1号車」は共に 81LAP。ラスト 1 時間で表彰台圏内を目指す。

■最終結果

KTOクラス、トップでチェッカーを受けたのは、終盤に 1 位の座を守り続けた#210「ZESTルブロス DXL アルト」であった。124 周を走行し、総合でも 1 位となる堂々の結果で、オープンクラス移転後初優勝を飾った。

続く 2 位には#777「ナルミファクトリーアルト1号車」が入った。1 位と同じ 124 周を走りきったものの、僅かに及ばなかった。

3 位には 123LAP を走行した#8「DXLグローバルカプチーノ」が続き、2 戦連続での表彰台を確保した。
4 位の#32「爆走あばれ馬DXLミニカ」も 122LAP を走行する検討ぶりを見せたが、惜しくも表彰台には届かなかった。
4 年ぶりのエントリーとなった#1「ワイオー・サン・ハチ・ワークス」は、序盤の勢いが続かず、119LAP の 5 位でレースを終えた。

前回優勝の#666「ヴィスコンティIMWあると」が、今回リタイヤでノーポイントに終わったこともあり、シリーズポイント争いは 5 チームによる団子状態となった。この混戦を先に抜け出し、優位にシリーズを進めたいところであるが、次回第 3 戦はターボの改造車には厳しい真夏のレース。次戦ではマシンコンディションが順位に大きく影響を与えそうである。